

令和4年3月25日審議

1

申請者	放射線科医長	近藤 聡彦
	2021-35	聖隸式ガイドパイプを用いた頭蓋内電極留置法の有用性に関する検討
研究の概要	聖隸式ガイドパイプを使用することで、従来法に比べて脳内への金属製ニードルおよび電極の刺入操作の回数が2回から1回に減り、加えて電極を固定することも容易なため操作中の電極移動も最小限に抑えることが可能となる。正確な脳内電極留置は、より精度の高い焦点診断にもつながり、さらなる手術成績の向上も期待される。	
判定	承認	本申請は承認された。